

秩父三十四観音霊場



十二年に一度の出会い

2026年3月18日～2026年11月30日

一般社団法人秩父札所連合会

秩父三十四観音

秩父34観音霊場は、東京から約100km離れた、埼玉県北部秩父地域（秩父市、横瀬町、小鹿野町、皆野町）に点在する三十四ヶ所の寺院から成る観音霊場です。

秩父札所のおこりは、遠く鎌倉時代の文暦元年（1234年）に開創され、約790年もの歴史を持ちます。

長享二年（1488年）の札所番付（札所三十二番蔵）が実在することから、既に室町時代後期には秩父札所が定着し、室町末期には、日本百観音が成立していました。

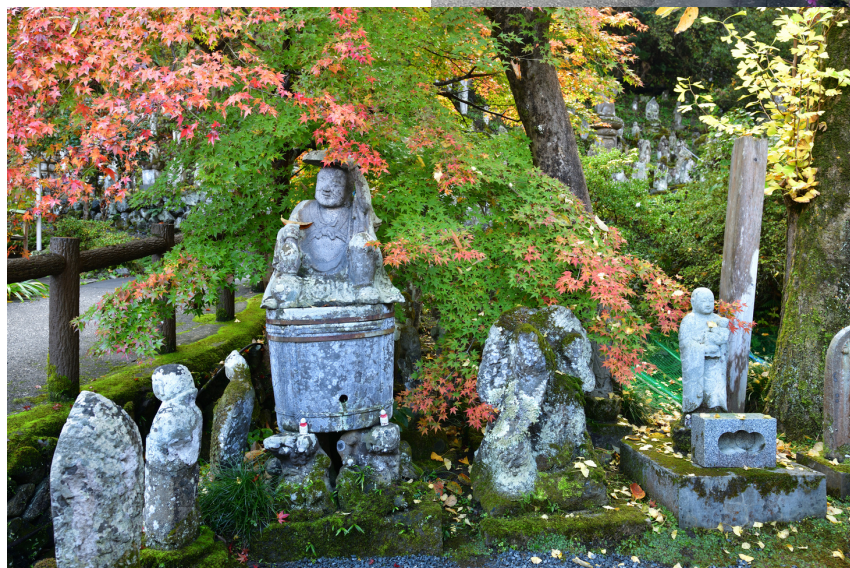
西国三十三所、坂東三十三所と合わせて日本百観音と呼ばれ、古くから信仰の対象となってきました。

江戸時代になると観音信仰は、庶民の心の支えとして広がり、隆盛をみることとなりました。

秩父札所は、一番四萬部寺から三十四番水潜寺まで、総距離約100kmにわたります。静寂な山村と美しい自然の風光を背景に、ある時は、谷を渡り、山路をたどり、野面を横切っての巡礼は、秩父ならではのものです。

秩父札所は、江戸時代から続く徒歩による巡礼道が残されており、現代では車やバスでの巡礼も一般的です。各札所には独自の歴史や見どころがあり、四季折々の自然や地域文化と調和した景観が特徴です。

素朴な風土に培われた秩父札所の観音様は、多くの人々から親しまれ、幸せを祈る人々や救いを求める人々に、やすらぎとご利益を与えています。



12年に一度 特別な御本尊様に会える



秩父札所三十四観音霊場のご本尊観音様は、普段は秘仏として、厨子の扉が閉じられています。

その扉が開かれるのが、午歳なのです。なぜ午歳なのかというと、秩父札所が開創されたのが、文暦元年午歳だったからです。そこで、十二年に一度の午年には「総開帳」が行われます。

普段は非公開の秘仏である観音様の納められてる厨子が開かれるので、お開帳。三十四観音霊場すべてのご本尊観音様の厨子が開かれるので、総開帳と言います。

多くの参拝者が訪れます。観音様の慈悲の心に触れ、ご利益を求める信仰の場であるとともに、地域の重要な文化遺産・観光資源となっています。

3つの特別な体験

秘仏の観音様を拝観



普段は非公開の秘仏である各札所寺院ご本尊様である観音様を直接拝むことができます

御手綱（おてづな）で観音様とつながる



観音様に結ばれた御手綱に触れ、直接的なご縁を結ぶことができます

特別な記念印と散華をいただく



総開帳期間限定の記念印や散華(さんげ)をいただけます

総開帳は信仰に関わらず、日本の伝統文化として、誰でも楽しめる特別な体験です

散華の魅力と満願の証

「記念散華」

散華（さんげ）とは

散華は、もともと仏前に散らす花や紙花を意味し、仏様への供物として奉納されてきました。現代では、寺院巡礼の記念や御朱印とともに集める人気の巡礼アイテムとなっています。



12年に一度授与される散華の特別な意味

12年に一度授与される記念散華は、800年の歴史を持つ秩父札所の伝統と観音様の慈悲を象徴する特別な品です。御朱印とともに記念散華を受け取ることで、観音様との強い縁を結び、心願成就のご利益が得られると言われています。

散華のご利益

- ・心願成就 - 巡礼の熱意と信心が観音様に通じ、願い事の成就を助けます
- ・厄除け・災難除け - 身につけることで、厄や災難から守られます
- ・縁結び - 観音様との縁だけでなく、人と人との良縁を結ぶ力があります
- ・安産・子育て - 子宝や安産、子育ての加護を得られます
- ・健康長寿 - 心身の健康と長寿のご利益があります

散華の楽しみ方

御朱印とともに集めた散華は、専用の台紙に収集することで、秩父巡礼の思い出として残せるだけでなく、ご利益を集める「功德の形」となります。34ヶ所すべての散華を集めると、観音様の万能の慈悲が結集し、より大きなご利益が期待できると言われています。



満願の証



総開帳期間中に満願（34ヶ所すべてを巡ること）を達成された方には、「満願の証」が授与されます。記念散華とともに「満願の証」を得ることで、観音様の加護が一層強まり、特別な功德を積むことができるでしょう。

令和8年の午歳総開帳記念散華は、800年の伝統と祈りが込められた特別なものです。この機会にぜひ秩父札所巡礼を体験し、観音様の慈悲と加護を感じてください。